

令和3年度 胎内市観光活性化推進委員会〈第2回〉 議事録

1 日時

令和4年3月28日（月）午後1時30分～3時40分

2 会場

胎内市役所 5階 501会議室

3 出席委員

高橋晃会長、平川啓一副会長、市野瀬登委員、須貝勝男委員、須貝建雄委員、佐藤稔委員、久世俊介委員、布川拓男委員、眞貝佳央梨委員、守屋邦彦委員（WEB参加）
観光振興サポーター 神田圭奈

4 委員会傍聴者

1名

5 会議次第

- (1) 第2次胎内市観光振興ビジョンの達成状況について
- (2) アクションプランの達成状況と見直しについて

6 会議経過

別紙のとおり

会議経過

1 開会

○事務局佐藤参事

皆さんこんにちは。本日は、お忙しいなかお集まりいただき、ありがとうございます。
ただいまから、胎内市観光活性化推進委員会を開会します。

はじめに、本日の開会にあたりまして、胎内市副市長の高橋からご挨拶申し上げます。
高橋副市長お願いいたします。

○高橋副市長（会長）

あいさつ

2 議題（1）

○高橋会長

それでは議題（1）について、事務局は説明をお願いします。

○事務局比企主任

（議題（1）について説明）

○高橋会長

今ほど事務局から議題（1）観光振興ビジョンの達成状況について説明がありました。
質問、ご意見ございませんでしょうか。

○平川副会長

宿泊施設の再来訪意向について、令和3年度が2年度より16%下がっている。これ中身までは分からないが、どういうところが。

○事務局比企主任

どこがどうというのはまだはっきりと分からない。

○平川副会長

下がった要因が分からないので、手の打ちようがない。分かる術はこれからあるのか。

○事務局比企主任

分かる術としては、具体的に各宿泊施設にアンケート等をお泊りいただいたお客様にお願いしていただくのが一番実態に即しているのかなと思う。

○平川副会長

分かりました。ありがとうございました。

○高橋会長

他にございませんか。

○守屋委員

平川委員のご質問にも関係するようなところですが、先ほど説明のところでは宿泊施設のリピーター率が非常に下がっている。数値が正しいのか正しくないのかは色々と検証の余地があるという話があったが、これが正しい、今回の数値のほうが実態に近いというような話をいただいた中でいうと、数字だけで考えると新規の方が来ている。でもあまり満足はしていなくて、一回来たならそれでいいやと思われているというような解釈ができると思う。それは事務局側としてはどう考えているのか。

○事務局南波課長

正直そのあたりを分析できているかというところ、このとおり正直難しいと思っている。

○守屋委員

リピーター率がどうかというところをもう少し正しく見ていただければというように思う。もしそれがそういうことであるならば、もう少し来ていただいた方にどうアップしてもらおうかということ、次のアクションプランなり見直しなりというところで、少し検討していく必要があるのかなと思った次第です。ありがとうございました。

○高橋会長

ありがとうございました。

このリピーター率は胎内リゾートのものということで事務局側から説明がありましたが、各宿泊施設でバラバラな数値だとは思いますが、一般的にはリゾートホテルのリピーター率はどの程度であるか。

○守屋委員

一般的にと言うと難しいが、今はおそらくコロナになって人の動きも変わってきているが、感覚的に2割はあまり高いとは思わない。もう少し高いと思うし、もっと大きな観光地であるともう少し高い割合、5割とか出てもいいのかなという感覚はある。一般論ではないので何が正しいのかと言うのは難しいところがあるが、なんとなく本当にリピーターが2割しかいないとすると、今の胎内リゾートの位置とかそういうことを考えると、新潟県内や新潟市内の人が主に来ると考えたときに、新規をどんどん獲得するというのであればそれも一つのやり方だとは思いますが、なかなか来ても満足しないという風にこの数字だと捉えてしまう。

○事務局南波課長

リピーター率、新規の増えた要因というところで今年度は教育旅行が割りと多く来てくれた。それで宿泊の人数はある程度いっている。初めての子供たちが当然多いわけだからある程度あるのかなと思っている。Go Toの影響はあまりなかったが、県内のキャンペーンだとかそういったところで新たに来てくれた方もある程度いるのかなというのは要因としてあるのかなと思っている。

そういうところで通常とはやはり状況が違うところがあると少しだけ思っている。

○守屋委員

そのような状況があることももちろん合わせて把握いただいているのであればそれはそういう状況だと思うし、再来訪意向が合わせて下がっていたというところもあったので。一方で樽ヶ橋遊園さんとかは色々なテコ入れをされていたと思うのでニーズもあるとすると、何か新しいことをしたり、色々な考え方が一つの視点としてあるのかな。これがこうだから絶対しなきゃいけないという話ではないので色々な見方があるのかなという事でお話をさせていただいた。

○高橋会長

ありがとうございました。それでは進めさせていただきます。

続きまして議題（2）について事務局説明をお願いします。

○事務局比企主任

（議題（2）について説明）

○高橋会長

ただ今までのところ（プロジェクト1）でご質問、ご意見ございませんでしょうか。

○久世委員

体験プログラムのところで、今胎内市のほうでリピーターは別として新規のお客様がこれだけ宿泊で泊っている中で、その新規で来た人たち、おそらくコロナ禍を考えると胎内にある自然とか人がいないとかそれを中心に来るかと思う。ある程度今用意している体験プログラムはそこそこ刺さりやすい部分があるかなと思う。その辺の人たちがどれくらい流入しているか分かりますか。

○事務局比企主任

そのあたりのデータはアンケート項目に入っていないので持ち合わせていない。

○久世委員

もし例えば自然を中心に求めて来ていて、自然はあったけど他にやることがないってことで満足度が下がっているのであれば、ここと紐づけがもしかしたら何らかの改善につながる可能性が。そこはアンケートを取っていないからわからないが。

逆に、令和4年度以降はそこら辺のことも考えたほうがいいのかと思いました。

○高橋会長

他にございませんか。

○布川委員

全体に関わる話なのですが、今さら言うのも変ですが、この表のまとめ方として、どのように、いつ、何を、が分かりやすくまとめられている。ただ素人が見ると、これ誰がやるのっていう部分が見えてこない。この前のビジョンの中には行政がやる、観光協会がやる、事業者がやる、市民がやる等ありましたよね。チームとしてやるのは当たり前だが、統括者みたいなのは各ページにいないはず。そこは書けないのか。

○事務局南波課長

書けないことはないと思いますので、どこまで明確にできるかは、ほぼもちろん行政が多く関わる。そこに観光協会さんであったり、胎内リゾートさんであったりがある程度関わってくるのだと思う。確定はなかなか難しいが、核の部分がこれとこれが中心だという、その一つ二つくらいかなとは思う。

○布川委員

とはいっても誰かがやったやつをここで集約しているわけでしょ。集約したのは事務局だつて言うのを分かって言っているのだが。

○事務局南波課長

報告的な部分でというところ。その先の部分ではなくて、今回であれば令和3年度。

○布川委員

5ページの頭に地域資源の発掘プログラム化というのがある。当然皆さんでやっていると思うが、特にこの方だとか、観光協会だとか、後で出てくる観光サポーターだとかね。そういうレベルのことをここに書けないのかなと思っている。

○事務局南波課長

可能な範囲で書きます。

○高橋会長

主な取り組み主体というような欄を設ければよろしいでしょうかね。

では、他はいかがでしょうか。

○布川委員

プログラムの地域資源の発掘というのがある。3年位前まで胎内リゾート活性化というのをやっていって今回この3年目にかけて「いろどり胎内」を作ってくれている。このプログラムを見ていくと、良いっちゃ良いのですけれど、胎内リゾートエリアの中にはビール園とかワイン工場とか、水を作る胎内高原ハウスだとか、フィッシングパーク、昆虫の家、クレーストーン、天文館、ライフル射撃場とか色々あるわけですよ。これに突き合わせてみたら、今までの「いろどり胎内」が5冊あるがどんなふうに活用しているか見てみると、クレーストーンの館が1回、天文館が4回、ライフル射撃場が1回、とこういう活用の仕方なのですね。今回の配られたものを見ると、昆虫の家がばあっと大枠で出てきて、やる気あるのだなと思ったのですけれども。そういう使いこなしの技術を誰がやるのかなと思って。やったけど、とりあえずはやめようと思ったのか、そんな部分がプロセスと言うかアプローチがよく見えないので、胎内リゾートエリアのところの使い方はどうしているのかなと気になっている。

○事務局比企主任

造成というところの部分は直接関わらないが、修学旅行の受け入れ等においては、胎内リゾートがあつて周辺にフィッシングパークがあつて様々一定の距離にそういった施設があるということで、直接、旅行社さんから胎内リゾート、観光協会であつたり、市役所に問い合わせをいただいて、リゾートとつながつてという。今、県内の振替需要の中ではそういった部分では活用できていると思う。この個々のプログラムでは少し弱い部分があつたのかなと思うのでそのあたり連携を高めていければと考えております。

○布川委員

今後の課題という言い方になるのですかね。

○事務局比企主任

はい。

○布川委員

分かりました。

○高橋会長

実際には県内修学旅行という事案をとった場合は、エージェントさんがホテルに行くなり、観光協会に相談に行くなり、市役所に相談に来るなり、その場その場でこちらからこういう体験メニューがございますという事で、提案をして実現できるものの中からエージェントさんが学校と相談をしつつ選ぶという、一般的にはそういう流れでやっていますね。

○事務局比企主任

はい。そういったところを好んで来られるエージェントさんがたくさんいらっしゃるのです、そのあたりは確かにおっしゃる通り強みだと思う。逆に今度は個人客向けに落とし込めるような仕組みを考えていければと思っている。

○須貝（勝）委員

新潟県観光協会のほうでエージェントとの商談会があり、コロナ禍で学校関係が動けるよう

な施設を紹介していただきたいというような話があり、その時はウェブで会議だったが、商工観光課と観光協会とロイヤルのほうでウェブ参加した。学校の人たちがロイヤル胎内パークホテルに泊まります。その後、どこにいけますかというときに、昆虫の家、天文館、クレーストーン、美術館とか色々あるのですが、まあ樽ヶ橋遊園も含めると、生涯学習課の管轄であったり、天文館のほうだと指定管理、樽ヶ橋遊園だと商工観光課。それでじゃあエージェントは誰と話をすればいいですかという話になり、それを商工観光課と観光協会と関係する生涯学習課が集まって商工観光課がとりあえず大きな窓口になるというようなことでエージェントから話をしてもらおう。商工観光課のほうで道筋をつけていくというフォームを一つ作ることにした。そのほうが動きやすいかな。それは今までなかったのが大きく前進したのかなと思っている。あくまでもそれは学校向けなので、個人の時はどうするのかというのは今後の課題。

○高橋会長

せっかくこれ資料作ってくださったのに、そのあたり今の話は大きいことですよね。前進していますので、こういうことで今進めていますという事をどこかでわかるようにしてもらったほうがよろしいと思います。

布川委員よろしいでしょうか。

○布川委員

はい。

○高橋会長

それでは進めてまいります。プロジェクト2事務局の方から説明をお願いします。

○事務局比企主任

(議題2プロジェクト2、3について説明)

○高橋会長

この議題につきまして質問、ご意見はございませんか。

(意見なし)

なければ進めさせていただきます。

続きまして議題2、戦略2について事務局のほうから説明をお願いします。

○事務局比企主任

(議題2プロジェクト4～6について説明)

○高橋会長

ただ今事務局から戦略2につきまして説明をいただきました。皆様方から質問ご意見ありませんでしょうか。

○市野瀬委員

連携プロジェクトの米粉キャンペーン。当選された方の胎内市、新潟市エリアは。

○事務局比企主任

A賞B賞ございまして、それぞれ5名ずつ。胎内市内の方が5名。市外の方が5名というかたちでバランスよく、わりと市外の方も利用されていたのがわかりました。

○市野瀬委員

ありがとうございました。

○布川委員

プロジェクト4。ページの11、14。議題がここに載ってくる背景がよく分からない。事柄が大きすぎて。委員会として何か話し合うような中身でもないような気がする。なぜここに入っているのか。これは市の話で意見出しても仕方がないでしょ。

○高橋会長

そのあたりは例えばこの施設が非常に老朽化しているので、リニューアルが必要ではないでしょうかというようなご意見をいただければ、それをすぐ実行できるとは限りませんが、何らかの形でそれを反映していくための参考意見として伺いたいと考えている。

○布川委員

逆の言い方になりますが、せっかく委員会があるわけですから、行政としてもこの委員会で図るべき案件はあるかと思う。事の大小は別として。そういうものじゃないのかなと思ひ裏返しに質問をした。言い方が悪いですが、この委員会は検討する場ではなく、決めたことやったことを報告しているだけ。言い方すごく悪いですが、そんな風に見えてくる。さらに言うとなんかもらったのでケチ付けますが、これ（いろどり胎内）、今度のやつでしょ。これ前のやつ。一目瞭然ですよ。前回の委員会でこんなものはだめよって言ったのだけど、結果として何も我々の意見が通らなかったわけですよ。だから決まったこと、やったことの報告だけという辛辣な意見になった。例えばこういうことが永遠と続くのであれば、この委員会の存在ってほぼないですよ。という愚痴なのですが、以上です。教えてもらいたい部分があれば教えてもらいたいですね。

○事務局南波課長

報告の場になっているというところは、全く否定する事はちょっと難しいところもある。もともと観光の会議がわりとそういう流れで、だいたい年に一回、年度末に「これやりました」という報告の会議がほとんどでそれがいくつもあり、私もそれではいけないなと思って変えていく必要があると思っていました。それがこの委員会であると年に2回の報告会ではなく、年度の途中でご意見を頂戴したり、方向的なところの確認をしたうえで、年度の最後でこういう結果になったという風には持っていきたい、そういう風にやりたいと思っていましたが、なかなか昨年度も一回、今年度もやりましたが時期が遅れているところが現状だと思っております。それはもう少し一度目の会議である程度方向を確認しつつ、最後は報告とその次どうしましょうという相談をさせていただきたいという風に考えております。この件（いろどり胎内）につきましては、反対のご意見をいただいていたところは重々承知で、その時も少しお話をしたのですが、新たな活用方法というか郵送面のこともあり一度試してみたいというのがありまして、これはご容赦いただいて、それでその上でやはり不評だという事であればそこは戻すことも考えて、そこはちょっと試させていただきました。委員の皆様のご意見を無視したという事ではなくて、そこはご理解いただきたく存じます。

○須貝（勝）委員

いろどり胎内については部数もあるのでよね。今までのやつだと全然配れないというところがあり、配れないですけどという話から今までよりもページ数を少なくして、紙のコストを少なくしてという事で部数を多くしたという事で認識はしている。

○事務局南波課長

そういうところもあります。

○布川委員

前も言いましたが、はけ具合はどうか。そこも調べもしないでという言い方は申し訳ないけれど。

○須貝（勝）委員

市からいくとも来ないので道の駅のところだけでほぼ終わっていて、近隣の道の駅とかには出せない。

○市野瀬委員

そうなのですね。先ほどのご説明だと部数とかということでページを少なくしました、小さくしましたというところかというと、それは効果測定がどうやってやるのか。これの配布先が他市にわたってという事であるなら、今の説明でいいと思いますけれど。結局は胎内市だけで他の施設に配られてそれでよしという現状であるならば、なかなかこれが活用されるところまで行っていないということだと思うのです。そういったところを根本的に考えないと内容的なものを含めてですけれどももう少しリニューアルしていく必要があるかと思います。

○事務局比企主任

効果測定という部分で、今回1万部印刷し、そこからウェブに流入するためのQRコードを貼らせていただいた。実際にパンフレットをとってQRコードを読んでもらった人の数が分かるようなQRコードになっているので、そのあたり9、10月あたりに次の会議を開催するときに1万部刷って何百しかウェブまで行っていないとなればまたあれなので、それがどれくらいウェブまでの流入に繋がっているかというのはそれをもとに効果測定したいと思います。

○高橋会長

根本的な対応についてのご意見ですので、次回までに整理させてもらいこの推進委員会の位置づけというか、これは何なのだということから決定機関なのか、いや報告して皆さんの意見だけいただくという会なのかそのあたりも事務局で整理してもらいましょう。

それでは進めてまいります。戦略3について事務局のほうから説明をお願いします。

○事務局比企主任

（議題2 戦略3プロジェクト7、8について説明）

○高橋会長

ただ今事務局から戦略3につきまして説明をいただきました。質問ご意見ありますでしょうか。

○久世委員

「くるっと胎内」が始まり3年経過したと思うのですが、びっくりしたのが思ったより10代から50代の利用者数に驚きました。これってそもそも皆さんわかって来ているのか。来たらあったみたいな感じですか。

○事務局南波課長

そこは正直完全にはわかっていないが、ある程度わかったうえでご利用いただいているとは思っている。

○久世委員

分かりました。

○佐藤委員

「くるっと胎内」、新しく観光タクシーですか、補助金が出るので行うという事ですが、これ実証実験でうまくいかない場合、市のほうで補助金使わずにまた行うのですか。予算があるからやっている。なかなか結果が出ない中で続けて少ないとかいろいろな意見が出る中で、もし乗る人は必ず一人や二人はいると思うのですけれども、その人のために予算をあげて続けていくのか。それとも実際本当にこういうことを続けていくことを繋げるためにやっていくのか、予算はどこから出てくるのか。そこら辺をどこまで考えて行っているのかなと思う。

○事務局南波課長

補助金は観光タクシーのみの話です。「くるっと胎内」はずっと補助金を使わずに市の予算でやってきています。ご利用いただいている人数がずっと少ないことは間違いなく、やはり令和元年度、2年、3年と少しずつ認知度が増えてきているのだと思うが、やはりコロナの関係で増えないのは仕方ないと思っており、続けるかどうかは別として少なくともコロナが落ち着くころまでは見たいと思っている。一年休んでまた収まったからやろうというようなことは難しいので、ある程度続けてやってみたいと思っている。

タクシーの補助の件は、うまくいけばすぐに市ができるかどうかは実際本当にやってみないところがあるので、それをみて本当に好評でお客様が増えるのであれば市のお金だけでもやるべきという形になるだろうし、ある程度検証してみてということになると思います。

○佐藤委員

逆にバスがなくなったじゃないですか。それで「くるっと胎内」が始まったのだと思うが、やめ際とかも考えているのか。

○須貝（勝）委員

やる前に平川副会長のほうから過去にもやったと言っていた。それをやめてまた復活したという事になっているわけですよ。復活したときに「くるっと胎内」よりも「のれんす号」のほうの利便性がというような話があったと思うのだけど、それでも3年経っている。それから全然検討されていないので、何も変わらずにコロナだから明けるまでっていうことで続くのだろうなっていう諦めだよ。本当に。だって答えが出ているのだもの、ここに。それを提案しきれていないって言うのはあるのだから思う。

○平川副会長

私も前回の会議で色々話していてデマンド（のれんす号）の活用法を考えたが、「くるっと胎内」は時刻表が決まって動いている。デマンドの場合は一応形上の時刻表があるが予約が入らなければ走らない。デマンドの中に「くるっと胎内」を盛り込んでやれば良かった。そうすれば新たにデマンドを使ってその時間お客さんの予約が入らなくても、この時間に中条駅を出発してと思ったが、物理的に無理だった。というのは定員が決まっているので、何人乗るか分からない。予約の人が違うところで待っていて、駅で10人乗って満車になった。次行ったら予約した人が乗れないという事になってしまう。だからデマンドなのですね。デマンドは人数も全部把握しているので、何処どこで何人、何処どこで何人、次予約が入って満車ですよって言うのが言えるが、観光で来られると何人で乗られるか分からないから難しい。という事はデマンドでうまくやれない。一つは須貝事務局長も言っていたがデマンドをいかに観光客に使わせるか。ただ「くるっと胎内」の中身を見てみると胎内市の人が多いじゃないですか。どこが違うのかという

と、予約をしなきゃいけないのと、お金ですよ。デマンドは300円。「くるっと胎内」は無料。その違いですよ。そこの検証もしていかないと本当に意味がない。

○須貝（勝）委員

「くるっと胎内」、去年の9月からはルートを変えてやっている。やっぱそれには久世さんのほうも乙宝寺に来てもらいたいから情報発信をやっている。ただ情報発信しているが中条駅に着いたらロイヤルまで行って平木田駅を周ってからじゃないと行けないので、ルートを変えてもらった。そのルートを変えたことによってコロナ禍であっても若干利用客が多くなったからという事で、今年4月から9月まではどういう人が乗るのかとかの確認は必要なのかなと。唯一やったのがルート変更。

○須貝（勝）委員

「のれんす号」のほうで電話をしなくてもウェブで予約を取れるようにするとかシステム開発をするのがいいのかなと。

○平川副会長

課長、あくまでこれは観光の二次交通として考えているわけですよ。

○事務局南波課長

はい。

○平川副会長

正直言うと、これを見ると観光の二次交通としての役割はない。デマンド300円よりも無料です。検証していても観光が二次交通での検証になっていないじゃないの。終わった後に何人って、じゃあそれ継続するのっていう判断がつかない。ただ少なかったね、ロイヤルが多かったですねとかそれだけの話になってしまうのではないかな。3年やって思ってしまったところがある。方法論がなかなか提案できないので言えないが、何となく疑問がある予算の使い方だなという感じがする。ただ提案ができないから申し訳ないなと思っている。デマンドのほうも含めて。

○須貝（勝）委員

言ったけど自分でもそう思う。それで変わる提案はと聞かれると出せないですよ。

○市野瀬委員

同じ補助金でも使うのであれば、ウェブで申込制にしてタクシー使うとか。それしか方法ないですよ。この問題を解決するには。「くるっと胎内」まわっていても、結局目的地がどこであるのかがまず第一であって、二次交通であれば利便性を求められますから、まったく利便性が無いわけですよ。だって本当は中条駅に帰りたいのに、ぐるっと平木田のほうに行って帰りますよ。時間があってこれでいいよっていう人はいいかもしれないが、やはり二次交通として考えるのであればやはりお客様の利便性を考えて、さっき言ったウェブでタクシーを予約してしまってそれを補助金として500円出しますという風にしていったほうがまだいいのかなと思う。

○須貝（勝）委員

実際は「くるっと胎内」についてどうするかは何かの委員会がないと検討する場がないとなかなか出てこないという感じですね。

○市野瀬委員

結局行政がやっていることに対してこういう話になってしまう。民間として考えればやはりもっとお金の使い方とか考えますよね。

○佐藤委員

自転車のほうで。レンタサイクルあちこち乗れるところが増えたじゃないですか。どういう人が使っているのか、どういうところに行っているのかが見えてこないの。あと胎内市で毎年自転車の大会が行われているじゃないですか。そういうことを踏まえて、結構自転車シフトじゃないですか。街を乗る場合、自転車を置くところとか自転車を通る道がないのではないかと。自転車に乗りたくなるという風な街の形に変えていったほうが。ただ「ありますよ」だけでは難しいのではないかなと思いました。

○事務局南波課長

それはその通りだと思います。利用は家族ですかね。胎内リゾートさんだとご家族で借りたりしているのかなと。行先まではどうなのでしょう。

○事務局比企主任

一応レンタサイクル三か所あるが、ほぼほぼロイヤルの実績です。ロイヤルとなると緑の季節であったり紅葉の季節など、どこに行くでもなく周ってまたロイヤルに戻る。というサイクリングという形で使われています。あと中条駅で使った人は、夕日を見に行くのに使った人もいるとの話もしていたので、まあ中条駅で利用する人はどこかの目的地があって乗られるが、ロイヤルの場合は周遊して楽しむというのがメインになっている。

○佐藤委員

うちのほうも当初、観光協会さんからお話をいただいてレンタサイクルを置いていたが、確かに何件か借りに来る方がいらっしゃったので、どういう方が借りているのかなとちょっと疑問に思ったので。

○須貝（勝）委員

中条駅のほうでは同じ感じですかね。ときや旅館に置いてもらっていたので。

○市野瀬委員

うちで出している場合、ホテルですからオプションにしても天候に左右される。だからまだ少ないのだなと私は思っていて、これが例えば宿泊プランに無料として全部ついていたら、天気だったら喜んで乗っていただければいい。その点はいつでも自由に乗れますともっとPRをしていかないと。なんだったら乙宝寺まで行って帰ってこられますくらいのレベルで1日自由にみたいなという利用法だと思うのですよね。

○佐藤委員

同じ自転車ですよ。違いますか。

○市野瀬委員

マウンテンバイクと普通の自転車とあとママチャリみたいなものがある。

○佐藤委員

ありがとうございます。

○高橋会長

他いかがでしょうか。時間もだいぶ経過してまいりましたので、進めてまいります。戦略4について事務局のほうから説明をお願いします。

○事務局比企主任

(議題2 戦略4プロジェクト9. 10について説明)

○高橋会長

ただ今事務局から戦略4につきまして説明をいただきました。質問ご意見ありますでしょうか。

○布川委員

20 ページ、ボランティアガイドの育成。10 人を 15 人にしましょうっていう数値なのですが、これって何か作戦あるのですかね。

○事務局比企主任

今ほど申し上げたとおり、ご推薦いただくのと育成していくというところではないと思っております。

○布川委員

誰が。

○事務局比企主任

行政と協会さんとで。

○布川委員

これのとっかかりはね、やりたい人集まってねって5、60 人集まって結果としてふるいにかかったのがこの10 人。もう一回出発点に立つみたいなのはやらないのでしょうか。別に金掛けなくても例えば久世さんが講師するとか、布川がお茶出しで手伝うとか。その点はできると思う。講師を呼ぶと30 万とかかかるのですよね。窓口があるから来てねみたいなのは、来るわけないよね。

○事務局南波課長

はい、その辺は考えて。今までも何かやらないと、という意識はあったが、実際なかなかどうだろうという面もあって躊躇していた。

○布川委員

個人の話をして申し訳ないが、以前観光協会に優秀な人がいた。あの人が観光ガイドの中身を頑張ってくれたが最近退職しましたよね。その辺のテコ入れもしないと、さっき言った美しい話題はなかなか成立しないのかなと思っている。

○事務局南波課長

体制整備というかあれですよ。そこは担当者が本当によくやっていただいたし、能力のある方だった。ただそれは個人に負うところがあったのだろうというのがありますので、体制としてしっかりできるようにしなくてはと思いますので、先ほどの新たなボランティアガイドの育成についても考えていきたいと思っています。

○布川委員

お願いします。

○高橋会長

他いかがでしょうか。

○須貝（建）委員

出前講座なのですが、学校だけなのでしょうか。例えば集落だとか市民団体、そこからの依頼はなくてみんな学校でしょうか。

○事務局比企主任

過去にはそういうところもあったと思うが、今年度については全て学校関連です。

○須貝（建）委員

ありがとうございました。

○高橋会長

他にございませんでしょうか。（意見なし）

なければ議題2、2つの横断的取組について事務局のほうから説明をお願いします。

○事務局比企主任

（議題2 横断1、2について説明）

○高橋会長

この議題につきまして質問、ご意見はございませんか。

○布川委員

21 ページ、観光振興推進サポーターとディレクターの話ですが、この21 ページの建付けは観光まちづくりをマネジメントする体制づくりのために観光ディレクターを配置しましょうというわけですね。私よくわかっていないのは、サポーター、ディレクターって呼び方にずっと抵抗感がある。なぜかという、ディレクターというのはどういうミッションを課すと予定していたのかなど。それに対してサポーターさんはこれだけのミッションをこなしているよと。それを絵にかいてどこをどうしていると。一口で言うと何なのだろうなという話。もっとその先を言うとすごくいっぱいやっているわけだが、こんなにいっぱいやっているわけなのになんでいつまでサポーターかっていう話。ディレクターにしてしまえばいいじゃないのか。してしまったら何か問題でもあるのですか。

○平川副会長

守屋さんあたり分かるのではないのでしょうか。観光ディレクターは各地域できてきましたよね。サポーターとディレクターの役割の違いというのがはっきりしていないが、ほかの地域のディレクターはどのような役割で何をしているのか分かりますか。

○守屋委員

他の地域も呼び方と役割がいろいろとあり、これは一概には言えないと思っているが、おそらく元々この観光振興ビジョンの中で、ディレクターと言っていたのは、もう少し全体のかじ取り役というか、全体を見つつ連携をしたりとか、そういうところを進める方を想定していたはずで、もちろん今神田さんがやられているサポーターという役割を担う方が当然必要でプログラム化に向かって全体を動かしていく方が必要なので、そういう方がいなければいけないのが事実だが、ここで言っているディレクターというのはより広い視野というか観光地経営的な視点というか、そういうところで今後どういう観光振興に持っていくかを連携して舵を取っていくようなイメージだったかなという風に認識はしています。

○平川副会長

ありがとうございました。

実は観光ディレクターに関しては私のほうが提案をさせていただいた。今、守屋さんが説明していただいた通りで、胎内市を俯瞰的に上から見て色々な団体を結び付けて民間と民間を結び付けるという意味だけではなくて、行政、それから民間、それから一般市民というもう少し上から。というのは市役所が主導でやっても市は行政として制限がある。民間人も我々も観光に特化しているわけではない。胎内市全体として観光をどういう風にしていったらいいのかなと上から見ただけ、それから発言も市役所にもできる、我々にもできる、協会にもできるみたいなイメージだった。なので今神田さんがやってらっしゃるのはもう少し具体的なプログラムをやっているが、最初のイメージがそうだった。そういう方々が全国にいらっしゃるが、呼ぶには相当なお金がかかる。というのがあってとりあえず今はサポーターを。目標としてはディレクターを置きましょうということでしたが、神田さんには苦勞していただいて動いてもらっている現状です。というように私は把握をしているが、提案した人間としては、本当はディレクターが欲しかったがなかなかできないという事で、しょうがないよねって思っている。

○布川委員

ディレクターっていうのは、例えば観光協会がそういう役目を果たすとか。後は行政がそれなりの知識がある人がなるとか。お金を持っている人がやらないとうまくいかないと思う。神田さんだってやりたいことだけやっていたいよね。名前にこだわるのであったら実質的ディレクターに準ずる仕事をやってくれているのだから、ディレクターにしてしまえばいいのではないかと思っている。多分ダメなのでしょうね。

○事務局南波課長

ダメとかダメじゃないとかいう問題ではないが。

○布川委員

前にも言ったように絵を描いてみてここまでできている。できていないと潰しこみしないと。これは未来も駄目だという結論になってしまう。

○平川委員

今みたいなのに 대해서는ディレクターとか言い方はどうでもいいですよ。何をやらしてもらうかははっきりしていないので、だから今みたいなご意見が出てきたりする。私は私で認識しているが、委員の方は違う認識をしている。何がどうなのって。だからその辺が役割は何ってところをしっかりとあげないと神田さんにこれ以上やらないよって言われちゃうかもしれないし。そうならないためにも。さっき言ったのは私の認識です。私の認識はそういうつもりで提案しましたが、たぶん皆さん違う認識を持っているから今みたいなこういう話になりますよね。

○市野瀬委員

でもこの観光ディレクターは、今、平川副会長がおっしゃった結局上から見たトータル的な仕組みを作っていく作成者であって。

○平川副会長

他のところだと強い人。行政にも観光事業者にも物が言えますよ、市民の意見を吸収できますよという人。やっぱりそういう方がなっている。

○市野瀬委員

サポーターは実戦部隊だから、ディレクターは実戦に動くわけではなくて、結局作り込んだものの色を埋めていくっていう。そのためにやっぱりサポーターは実戦部隊にいないと形にはできないというそういう事だと思うのですよね。

○佐藤委員

ディレクターってそもそも誰が設置したのですか。この会で設置したのですか。

○事務局南波課長

観光振興ビジョンを作るときに設置しよう。

○佐藤委員

ディレクターはまだいないのですか。

○事務局南波課長

まだいない。

○高橋会長

目標として設置したいねという。

○佐藤委員

じゃあいいじゃないですか。これからのものであったらいいのでは。

○布川委員

これからのものではない。もう3年前に出来上がってないといけなかった。

○佐藤委員

でも実際はないわけじゃないですか。今、平川さんが意見述べた後でみんなで共有すればいいのではないですか。

○布川委員

そこが大問題。

○平川副会長

これビジョン持っていれば分かるが横断的取り組み1にしっかり書いてあるわけですよ。観光ディレクターの設置って。入っているわけでしょ。観光振興ビジョンプロジェクトに横断的取り組みがしっかり書いてあるでしょ。ただいませぬっていう。じゃあその間に神田さんのほうに一部やってもらいたいねという事だと思うのですけれども僕は。完全に載っていますよね。あと何年かでやらなきゃいけない。10年間なので、平成でいえば41年。ビジョンですから。そこで終わった段階でダメでしたという結果になるのではないかな。

○市野瀬委員

その時点で外部から呼ぶという話はあったのですかね。

○平川副会長

そうですが、なかなか難しいよねっていう。

○高橋会長

だから今各々イメージしているディレクターというのが外部から専門的知識を持っていて、ある程度の権威をもってそういう方を想定してやっていただくのがいいのか、私個人的にはやっぱり地元をきちんと理解してここで生まれ育った人がディレクターとして成長できていればそれはそれでいいのかなという風な気持ちもありますし、そのあたりをこれからみんなで

議論していきましょうよという事だと思う。

○平川副会長

布川さんがおっしゃっているように神田さんもちゃんとやっていただいているが、ある程度勉強も必要だと思う。そういう人達のためにそういう人達を呼んで、やる気のある市民の達が1年なら1年くっついて勉強したいねっていうのが正直あった。私もそれなりに勉強しているが、自分だと限られている。全国で活躍されている人達はみんな分かっている市民の使い方も上手だ。それを我々も学びたいなと思った。実戦で。講習だとかなんだとか2時間くらいで終わってしまうが、実際に事業をやることによって身につくのではないかなと思ったのがきっかけだった。ただお金がかかるのは分かっていたので、それについて勉強したかったなっていう。

○高橋会長

はい。予定されていた時間が過ぎてしまいましたが、守屋委員にディレクターの件について何か胎内市にとってはこういう形、ビジョンに沿ってこうだよねっていうご意見があれば伺いたいのですがいかがでしょうか。

○守屋委員

平川副会長のほうから色々お話をいただきましたが、我々も色々な講座で各地のDMOで先頭に立ってやられているような方をお呼びしてお話を伺ったりとかやらせていただいている。その中で、もちろん外からやられてほかの所で実績があってまた別のところに引っ張られてというような方もいらっしゃいますし、やっぱり地域でずっとやっていて旅館の方とかが地域のリーダーになってやられていたり、外も中もいろいろなパターンがあります。一方で結構多くあるのはディレクター1人がいれば全部が回るわけでもなく、3人くらい役割が違う人が中をまとめられる人、外からの知見をいろいろ持ってくる人、とにかく発想豊かでまずはやろうと頑張って言いだす人、そういう人が本来ならばある程度2、3人くらい同じような考え方で、でも得意なところは違ってみたい人が集まって引っ張っていくと一番美しくリーダーみたいなディレクターになっていくということかと思う。

胎内市の場合そこが今みたいに経験のある方から来ていただいて学ぶのがいいことだと思うが、もちろん中の方でも育てていくのが悪いっていうわけではないので、そこはちょっとどういう形でディレクター的役割を果たせる人が生まれるかというのはケースバイケースだが、今お話をいただいていたように、ある程度行政の方にも意見を言えたり、民間の方をまとめられたりという方をうまく発掘していくのが胎内観光のステップをあげていくには必要なかなと思う。それはどうやればいいのか、お金を積んでいけばいいのか、人を育てればいいのかはこれから色々考えていかなければならないという風に思うということです。

○高橋会長

ありがとうございました。なかなか難しい問題で今日かなりの時間を費やして議論をしたわけですが、結論的には守屋委員の意見を参考にしながら事務局のほうでも煮詰めていくようにお願いしたいと思います。

予定された議題は全て終了しましたので進行のほうを事務局にお返しいたします。

3 閉会録

○事務局佐藤参事

長時間にわたりまして大変ありがとうございました。皆様方からご意見いただいたものをこ

れから考えながら進めたいと思います。最後に閉会のあいさつを平川副会長よりお願いいたします。

○平川副会長

(あいさつ)

○事務局佐藤参事

少しだけお時間をいただきたいのですが、眞貝委員がこの度、新潟食料農業大学を卒業され就職をされるということで、この委員をやめさせていただきたいとの申し出がありました。眞貝委員のほうからひと言お願いいたします。

○眞貝委員

就職を機に委員を退任させていただきます眞貝佳央梨です。胎内市には大学で4年間来ましたが、関わってきた皆様は胎内市の観光に関してすごく熱い方が多く私もそれについて行こうと会にも参加させていただいて特に何も貢献することはできませんでしたが、すごく良い経験ができました。

最後に、私も元々よそ者なのですが、4年間胎内にいて、また胎内市にファンとして来たいなと思っているので、改善してもらえたらなと思うことが2つあります。一つ目は、観光として自然を売りにしているからこそ少し雨天に弱いのかなと感じていて、樽ヶ橋遊園とかは改善されたと思いますが、体験プログラムが結構雨天で延期されているものが多いなと思っていて、そこを改善されると遠方からも来やすいのかなと思っている。あともう一つは予約するものが多いかなと感じた。290号線にできた「いちべえ」の直売所があるが、そこはふらっと行って地域の人と交流できるところが私の中では結構売りかなと思っていて、そういう場ができる地域の方たちとも交流できてリピート率っていうところにも改善できるかなと思っています。この二つを改善するのはコロナもあって大変だとは思いますが、観光ディレクターの有無だとか施設との連携とか大事になってくるので行政の協力も必要になってくるが、専門家ではない私の意見ですがそれだからこそ改善されたらもっと良くなるのかなと4年間で感じました。胎内市に4年間いて魅力というものを感じたので、今度は観光する側として胎内市に来たいなと思っています。ありがとうございました。